

### ■総評

18回を数えた「あやべ観光写真コンテスト」は、令和となり新たに「**あやべ観光デジタルフォトコンクール**」と名称を変え、また応募方法もデジタルフォト時代に即応した形で今年度よりスタートしました。すでに写真の世界ではプロアマ問わず、撮影機材はほぼデジタルになっており、スマホが小型デジタルカメラの機能を大きく超えた今、デジタルと呼ぶこともなくなりつつあります。しかしながら現状すべての応募者が、デジタルフォトの特質を良く理解されているとは言えないこともあり、このコンクールが皆様の撮影や現像技術の向上に少しでも寄与できれば幸いと考えています。

さて、初回の今年度は応募総数 245 点、68 名の方々が出品されました。全体的な印象は風景写真に優れた作品が多く、イベントや人物写真ではやや低調な感を受けました。やはり撮影現場でのいろいろな制約や肖像権などが響いているように思います。そのような応募状況の中、審査においては、行事であり風景写真でもあるあやべ水無月まつりの写真が大賞となりました。この作品は綾部の観光を代表するイベントであり、審査員全ての皆さんが推薦し決定しました。その他の作品も甲乙つけがたく、表現内容によってそれぞれの賞に入りました。また選外の作品にも良い作品が幾つか見られましたが、入賞作品には今一步及びませんでした。

今回審査において感じたことの一つにデジタル技術、即ち撮影後のデータ処理が今後の作品向上に不可欠という認識を持ちました。入選作品の中にも色調などのデータ処理がうまくできておればと思える作品が多く見られましたので、これを機に応募された皆様は次回を目指して今一度デジタルフォト技術を高める意識を持っていただきたいと思います。そして、綾部の観光写真をメインテーマにしているこのフォトコンクールが、皆様とともに益々発展していくことを期待します。

### ■入選作品講評

#### 由良川演花彩

これまでも花火大会の写真は数多く出品され賞にも入りましたが、今回の作品はその中でも完成度が極めて高く、一言でいえばプロフェッショナルな作品でした。画面構成、色調なども申し分なく、特に花火の光に対する露出が適切で、夕暮れ時の空の明るさとのバランスを見極めた撮影時刻の設定が絶妙です。加えて、花火の大きさと打ち上がる高さ、広がる位置などの綿密な計算があったと推測します。そこには作者のこれまでに積み重ねてこられた数多くの経験の裏付けがあったからこそできた作品で、風景写真・観光写真としても一級品です。

## 花のトンネル

満開のバラ園でいい場面を見つけました。花のアーチだけでは色味が偏るので空を少し見せ、青空を入れたところなど構図も良かったと思います。人物を入れたことにより情景に変化が出ました。このような画面構成においては暗部のディテールが出にくい場合、フィルム撮影では明るくするには全体の露出をあげるか、日中ストロボで撮るなどの選択肢しかありませんでしたが、デジタルでは撮影後に花と空の露出調整できるため、今後作者には作品レベルアップに向け、データ処理技術向上にトライしていただきたいと思います。

## 静寂の境内

見事な秋の色彩を見せてくれています。紅葉の落ち葉のグラデーションが美しく、全体に落ち着いた色調の仕上げでしっとり感も出て、タイトル通り画面全体に秋の静寂感が溢れています。応募作品の中にこのかやぶき屋根の建物はよく登場しますが季節や時間帯によっていろいろな表情があり被写体として大変いい場所です。軒の造作を見せず暗くしたことでより印象が深まりました。

## 数十万年の時間

由良川沿いにある立岩の甌穴を超広角レンズの特徴を生かし、これまで見たこともない風景写真ができました。ディフォルムされた甌穴が恐竜の口のように見え、何ともいえない不気味な表情が浮かび上がってきます。また溜まった水に木々と空を写り込ませることで画面が締まりました。甌穴の辺りで何か面白いアングルがないかと動き回った努力が良い結果に繋がりました。左上の空のディテールが出ていればもっと異様感が増幅したと思います。

## 里山ルミナリエ

ホテルをルミナリエに見立てたセンスは素晴らしいです。まさに自然の動くイルミネーションです。ダイナミックな光跡の流れは、何度も撮影した結果から生まれたものと思いますが、偶然とはいえ、撮影時間帯の選択、重なり具合、位置など計算されていたようにも見えます。背景となる空の雲を長時間露光で流れたイメージに仕上げ、超広角レンズを使用したセンスとカメラワークは秀逸で手慣れたベテランの味を感じます。

## 夕間の梅林

梅林公園のライトアップ、昼間の光景とは違って一段と艶やかな梅林に生まれ変わりました。特に夜空の色調がブルーではなく、赤い暖色系にしたことでまだ肌寒いこの季節が華やかなイメージにもなりました。中央に通路を配し、カラフルな梅林がある場所を選び両

側に入れた構図や、ライトで照らされた梅花の色味が飛ばないように、また背景の空が真っ暗にならないよう時間帯を考えた作品作りは素晴らしいと思います。

### **紅の中**

大胆な構図でダイナミックに紅葉のライトアップをうまく表現しました。ともすれば紅葉だけの平面的な画面になりがちなところを、真っ赤な紅葉のグラデーションで見せ場を作り、池面に写り込んだ木々、そして右上の幹と枝の流れで奥行きと遠近感を出すなど光の演出と超広角レンズの特性を生かした画面作りに作者の感性と撮影技術が光ります。

### **この野原いっぱい**

鮮やかなコントラストの強い色調をデジタル技術でより一層強調したことがよい結果を生みました。画面下一面に広がるコスモスの花、カメラ位置を低くして牧場のオレンジ色の屋根だけが入るようにした構図、そして青空など色彩感覚も素晴らしいと思います。画面上を少しアンダーにしすぎた感がありますが、撮影時点での仕上がりのイメージ通り大変シュールに仕上がり印象的な作品になりました。

### **谷間の春**

仕上がりのイメージを十分考えて撮影に臨まれたと思います。しかしながら、実際に現場でカメラを構えたときに思っていたようなアングルがなかなか見つからなかったと想像します。ミツマタの花が多く密集している様や群生する位置、太陽の光芒など、絵になる場所は限られる中でいい写真が撮れました。欲を言えば光芒がもう少し長く差し込んでいればもっと良い作品になったことでしょう。

### **水生園・あけぼの**

墨絵のような幻想的な光景ですね。モノクロでは表せない色の微妙な変化が素晴らしい。朝もやの中、朝日が光る何とも言えない雰囲気漂い、静寂と相まって格調の高い作品になりました。好みの問題になりますが、デジタル処理により色調面で朝日がもう少しオレンジ系になっていれば、より一層朝日のイメージに近づいていたと思います。

### **由良川雪化粧**

雪の早朝、晴れ間が覗く最も美しい時間、僅かに揺れる凧の川面が鏡のようで、凜とした静寂感が満ちています。このまま由良川に小舟を出してこの風景を楽しみたい気分になります。仕上げの点で画面全体がややアンダー気味のため雪の白さが抑えられ、やや印象が弱くなったことが惜しいです。

## 風鈴と庭園

風鈴祭りの涼しい雰囲気がよく出ていて、風鈴の音が聞こえてきそうです。建物越しに撮影したことで遠近感を出し、手前に水面のような写り込みを作った上下のシンメトリーな構図が目を惹き、清涼感も出ました。この場所に写り込むような物があつたのかわかりませんが、現場で黒漆塗りの板などを利用して写りこみを演出したとすればその画面構成力には感服します。

## ヒメ蛸の山神詣で

乱舞するヒメ蛸、何万匹といのでしょうか。夕闇の中、神社の祠を背景にした幻想的な作品ですが、露出時間が少し短かったため光跡が小さくなり、ややインパクトに欠けました。データ処理過程でコントラストを少し強くするなどして作品の意図を表現することも一考です。また露光時間を延ばして光跡が流れるようにすればまた違った迫力ある作品が生まれたことと思います。

## 朝露に濡れて

コスモスに朝露がついていて早朝の雰囲気がうまく表現されています。また教会の十字架が清らかなイメージを引き立ててくれました。全体の色調がマゼンタ系に流れている点と花の部分が少し暗いのが気になります。早朝の色はその時の天候状態で変わりますが、デジタルフォトの特性を生かし少しシアン系のほうに色調整をして、アンダー部分を明るくしてみても良かったと思います。

## 黄金の農地

夕暮れの田んぼを望遠レンズを使ってうまく切り撮りました。棚田の写真でよく見かける光景ですが四角に区切られた田んぼでもこのように美しく見えています。特にブルーとオレンジ色の対比が綺麗で、手前に田んぼ、そしてカーブする川、家並みと構図も決まっています印象に残る作品になりました。

## 水鏡

紅葉を池面に写っている木々と周りを囲むような落葉で見せたいとした画面構成は成功しています。また点景で入っている2匹の錦鯉がアクセントとなって、鮮やかな秋の庭園風景になりました。撮影時、この画面に錦鯉をうまく入れたいとシャッターチャンスを待っている作者の様子が手に取るように分かります。

### **紫水ヶ丘からの夕景**

市内を流れる由良川と市街を一望する紫水ヶ丘公園は、家族連れの憩いの場です。昼間に見えるいろいろなものが夕暮れの中に隠れ、つつじと夕陽に染まる山並みと市街だけを見せる画面整理が見事です。昼間に撮れば何でもない展望場所を5月のつつじ咲く頃の夕景として美しく表現したセンスは非凡です。